

## アーキテクトタイタンへの採用面接をご希望の方へ

有限会社アーキテクトタイタン

創業者・取締役共同主宰

河原司 中川晴夫

このたびは、弊社にご興味をお持ち下さりありがとうございます。

今まで多くの方々と共にお仕事をし、採用等を通じてお会いする中で、採用面接は、お見合いのようなもので、お互いの価値観や目指すべき方向性、お互いの損得などが（大枠で）一致することが大切だと思っています。

ですので、自己紹介として、わたしたちが会社を創業しデザインを進めていく中で、基礎になっている考え方についてお伝えできればと思います。こういう話にありがちな少々「大きな話」になっておりますが、基本方針のご説明ということでおつきあい頂ければ幸いです。

また、お見合いの最後の決め手は、相性だと思っています。面接ですので、わたしたちは皆さんを選ぶ立場にあるとお思いかもしれませんが、みなさんも入る会社を選ぶ立場にあると思っています。

これからご説明する基本方針に大枠で賛同、または興味を頂いて下さる（大枠、というのがとても大事で、全てでなくて良いのです）方には、ぜひお会いさせていただき、お話できればと思っています。

### ■ アーキテクトタイタンとは

建築的思考を基礎とし、様々なデザイン分野に応用し、本来の意味の「デザイン」を行うことによって、世の中を良い方向に変えていくことを目標としている、企画・デザイン会社です。

「なんのこと？」という声が聞こえてきそうですので、  
これよりひとつずつご説明できればと思います。

## ■ アーキテクトタイトンの社名の由来

「アーキテクト」は、直接的には「建築家」という意味で、もう少し広く言いますと「物事を構築、設計する者」です。これは創業者が「建築設計」を大学で学び実践していく中で身につけた考え方が、デザイン業務を行う上での基礎になっているからです。

「タイタン」は、京都弁で「炊きもの」を表す「たいたん」から取りました。創業時より、チームによるデザインが大きなテーマであり「それぞれの素材（＝人間）の良さがしみ出して、ひとつの味をつくる」という意味です。

このふたつの言葉を合わせ、

「アーキテクトタイタン（ARCHITECT TAITAN PARTNERSHIP）と命名しました。

## ■ 業務内容

弊社は簡単に言うと「企画・デザイン会社」です。

企画・デザインの領域は、

ウェブサイト（PC/モバイル）、建築デザイン、印刷物のデザイン、動画制作、写真撮影（スタジオでの商品撮影、ロケでの人物撮影等）、ブランド構築、販売戦略の立案と多岐にわたっております。「何でも屋」ではなく、それぞれの分野における「専門家」を目指しています。そしてそれぞれの分野の相乗効果を生かし、より良い提案をしていくよう日々努力しています。

また、その他にも、オンラインショップの商品データベース管理、画像データベース管理、SEO（検索エンジン最適化）施策立案・運用、ウェブサイトの定期的な更新業務、売上予算管理など「運用・作業」にまつわる部分も積極的に受注しております。後に挙げた業務は、一般的には「デザインでは無い」と思われている業務です。

しかし、我々はここに挙げたすべての業務が「デザイン」であると捉えています。

## ■ 「デザイン」という言葉・・・本来のデザインとは？

「デザイン」と聞くと多くの人が「絵を描くなどして、かたちを表現すること、表面を飾ること」と捉えています。ですが、これは実はデザインの一部でしかありません。

デザインの本来の意味とは、

「ある問題を解決するために思考・概念の組み立てを行い、それを様々な媒体に応じて表現すること」です。

まずはお客様の悩みや目の前にある課題を見いだすこと。そして、どのような解決策があるかを考えます。これらを解決し、新しい価値を生み出すためにどんな「かたち」や「表現」「方法」があり得るか、ということを考えます。また制作物が世に出た後、どのように維持・継続するのか、次の展開をするのか、ということも考えます。このプロセス全てを「デザイン」であると捉えています。

## ■ 目標

アーキテクトタイタンは、

この本来の「デザイン」を行う会社でありたいと思っています。

そして本気で行った「本来のデザイン」は

「世界を良い方向に変えていける」と考えています。

世の中には、残念ながら、やっつけでデザインされたものや、デザイナーの表現欲のみで作り上げられたもの、表層的な装飾のみになっているものが、多数存在します。少し大げさかもしれませんが、ひとつでも多く「本来のデザイン」を考えたものが世の中に増えれば、確実に世の中を良くすることに繋がると考えているのです。小さなところからひとつずつ世界を変えていきたいと思っています。

実際には、費用やスケジュール、クライアントの要望などの制約によって、本来のデザインを全てにおいて求めるのは、難しいことです。完璧主義では何も進まず、現実には部分的に実現するなど折り合いもつけていく必要があります（この折り合いの付け方もデザインだったりします）。だからこそ「本来のデザイン」を行っていく会社であるという目標をしっかりとかかげておく意味があると思っています。

## ■本来のデザインと「建築的思考」

創業者は、「建築設計」を通じて、「建築的な思考」を身につけました。建築的な思考は建築設計にだけ使われるものではなく、世の中の様々な「デザイン」に対して、応用でき、また大量生産・消費時代を終えたあとの時代にもフィットすると考えています。

建築的思考とは、以下のような考えが基になっています。

- ・ 建築は日常生活に密接で、人によって「使われる」ことが前提であること。快適に、使いやすい、心地よく、過ごしやすい建築であること。 → まずは気持ちよくあってほしいですね。
- ・ 建築を設計し、依頼者の望んでいることを叶え、悩みを解決すること。 → デザイナーとしては依頼者が想像していた以上のレベルで実現するととても喜ばれますので、そこを目指します。
- ・ 多くの場合、依頼者が費用を出資し、われわれデザイナーは費用を出資しないこと = 依頼者のお金を使って、建築物を代わりに作っているということ = 依頼者が喜ばないと意味がない → 「デザイナーは自分の好きなものを作ればよい」というのは大きな誤解なのです。
- ・ 近隣の環境やまちなみ、地球環境について配慮すること。 → 昔からある「向う三軒両隣」との関係が良好であるように気を配ることです。例えば、隣の家までの距離が近いとき、隣の窓の真正面にこちらも窓を作ったら、お互いに視線が気になり開けられなくなりますね。少しずらせばお互いに開けられるようになります。
- ・ 土地や周辺的环境・状況をよく読み解き、良い特徴を伸ばし、厳しい特徴を緩和する設計を行うこと → 簡単な例ですが、景色が良い方向に窓を作り、リビングに面して、いい眺めを楽しめるように。西日が強く指す箇所は窓をずらしたり、外に植栽をしたりするなどして直射を避けるなどを考えます。
- ・ 一度建築されたものは、数十年から数百年の期間、存在し、使用者だけでなく、周囲にも影響を与えるものなので、大きな社会的責任が伴うこと。 → 周りを無視した派手な建物を作るとまわりに不快感を与えたりするのは、よく聞く例ですよ。
- ・ 長い間使用されるものなので、日々のメンテナンスが支障なく行えること。 → 例えば、高い位置の電球が交換できないと不便ですよ。
- ・ 廃棄される際の廃棄物等にも十分考慮されていること。 → 建築の解体現場をご覧になったときに、膨大なゴミの量であると感じられたことはありませんか？

建築設計をすることは、こんなたくさんの使命を背負っています。しかしどれも重要なことです。本来は無視されるべきことではありません。ですが、身の回りにこれらを実現できていない建築がたくさんありませんか？ わたしたちは「建築設計」を学び実践する中で、社会的責任が伴うことを強く意識し、これらの項目について「真剣に、本気で」取り組むべきであるという強く思っています。

そして、これらはデザインの本質的なところに繋がっていくと考えます。だからこそ建築的な思考が、全ての分野のデザインにおいてますます重要になり、これらの考えで「デザイン」されたものは「世の中を良い方向に変える」ことに繋がると考えています。

#### ■ 採用面接をご希望の方へ

さていかがでしたでしょうか？ わたしたちとしても「大きなこと言っている（言い過ぎているかも）な〜」と思うくらいではあります。ですが、アーキテクトタイタンというチームが進んでいく上での「軸」についてお伝えしようと考えた結果、こういう言葉にまとまりました。

現在のアーキテクトタイタンのわたしたちも含めた社員全員が、これらの考え方を完全に共有し、いろんな分野の技術をマスターし、本来のデザインをすべて行っている「スーパーデザイナー」であるかという…、そうではありません。また建築の話を考え方の基本としましたが、現在、社内で実際に建築設計を学び、設計に携わっているのは、全体人数の1/5くらいです。大卒の目標を共有、理解してもらった上で、それぞれの担当業務に取り組んでいます。業務の規模によって、ひとりで全てを行うものもあれば、複数人で協力して取り組んでいくものなど、いろいろです。全体として、お互いの力を結集して良いデザインを作り上げていくということが、チームでデザインをしていることの意味だと思います。

そして自分がどの部分の業務を担当していようとも（お客様と打合せしていても、グラフィックデザインをしていても、HTMLのコーディングをしていても、EXCELで表と格闘していても、あちこちに電話してスケジュールの調整をしていても）それがすべて「本来のデザイン」を実現する道筋の中にあると心にとめて、業務に取り組んで頂きたいと思っています。

冒頭に申し上げましたが、これらの考え方について、ご興味を抱かれたり、ご賛同いた

だけたり、一緒に本来のデザインを目指していこう、と思って下さる方には、お時間を頂  
きましてお会い出来ればと思っております。

お会いできることを心より楽しみにしております。

河原司 中川晴夫